

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	整形外科学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験12年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 整形外科疾患の病態を理解する。 2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解する。 3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解する。 4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解する。			評価方法			
授業概要	整形外科領域における疾患について学習する。 国家試験の過去問を授業資料として取り入れる。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整形外科学 I 総論						
第2週	症状と検査						
第3週	症状と検査、治療法						
第4週	単元試験1						
第5週	運動器疾患総論1 四肢脊椎の先天奇形、骨系統疾患、骨・関節・筋肉の感染症						
第6週	運動器疾患総論2 骨・軟部腫瘍、慢性関節疾患						
第7週	運動器疾患総論3 関節リウマチと類縁疾患、代謝性骨疾患						
第8週	運動器疾患総論4 神経・筋疾患						
第9週	運動器疾患総論5 四肢循環障害						
第10週	単元試験2						
第11週	運動器疾患総論6 腱・腱鞘の疾患						
第12週	運動器の外傷1 骨折・脱臼、骨折の合併症、捻挫・打撲						
第13週	運動器の外傷2 血管損傷、区画症候群、皮膚損傷、筋損傷、挫滅症候群、四肢切断						
第14週	運動器の外傷3 腱・靭帯損傷、スポーツ障害、末梢神経損傷、脊椎・脊髄損傷						
第15週	単元試験3						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	内科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	内臓に障害が起こると、どのような障害が出るのかを、国家試験の過去問を中心に解きながら理解できるようになる。			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている[内科学]の基礎的知識を理解する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	必修ポイント2024 臨床医学	使用器材	パソコン・プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	循環器疾患(虚血性心疾患・心不全)						
第2週	循環器疾患(不整脈・種々の心疾患・肺塞栓症, 脳塞栓症)						
第3週	循環器疾患のテスト						
第4週	代謝性疾患(糖尿病・低血糖症状・メタボリックシンドローム)						
第5週	代謝性疾患のテスト						
第6週	呼吸器疾患(閉塞性換気障害と拘束性換気障害・種々の呼吸器疾患, 呼吸障害・スパイロメト)						
第7週	呼吸器疾患のテスト						
第8週	消化器疾患(種々の消化器疾患・腸疾患)						
第9週	消化器疾患テスト						
第10週	肝疾患(肝炎・肝硬変)・内分泌疾患(分泌異常と疾患)						
第11週	肝疾患・内分泌疾患のテスト						
第12週	膠原病・自己免疫疾患・泌尿器疾患						
第13週	膠原病・自己免疫疾患・泌尿器疾患のテスト						
第14週	血液疾患・薬物療法						
第15週	血液疾患・薬物療法のテスト						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法評価学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院にて患者の評価・検査経験39年を有する	担当者	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 評価の目的、意義、過程を理解する。 2. 評価に必要な基本情報を理解する。 3. 意識障害・全身状態の評価を理解し実施できる。 4. 形態測定を理解し実施できる。 5. 関節可動域検査を理解し実施できる。 6. 得られた結果を解釈できる。			評価方法	期末試験(筆記試験、実技試験) 60% 確認テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)		
授業概要	評価の目的、意義、過程を理解し、意識障害・バイタルサイン・形態測定・関節可動域検査を実施できアセスメントの考え方を学ぶ。また、評価に際して必要な触診も実施します。						
教科書等	理学療法評価学第6版	使用器材	ゴニオメーター、メジャー、映像機器、徒手筋力計モービィ、油圧式ピンチヒッター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週 (2コマ)	評価の基礎 リハビリテーション医療における評価、過程、対象、評価の構成要素						
第2週 (2コマ)	意識障害の診かた、バイタルサイン 循環器、呼吸器						
第3週 (2コマ)	バイタルサイン 循環器、呼吸器 形態測定						
第4週 (2コマ)	形態測定 身長、体重、四肢長						
第5週 (2コマ)	形態測定 周計						
第6週 (2コマ)	前回までのまとめ 確認テスト1						
第7週 (2コマ)	関節可動域検査 正常な関節可動域、最終域感、手順						
第8週 (2コマ)	関節可動域検査 肩甲帯、肩関節						
第9週 (2コマ)	関節可動域検査 肘・前腕、手・手指						
第10週 (2コマ)	前回までのまとめ 確認テスト2						
第11週 (2コマ)	関節可動域検査 股関節、膝関節						
第12週 (2コマ)	関節可動域検査 膝関節、足関節						
第13週 (2コマ)	関節可動域検査 頸部、胸腰部						
第14週 (2コマ)	前回までのまとめ 確認テスト3						
第15週 (2コマ)	国家試験問題解説、総まとめ						
授業外 学習指示等	授業の進行に併せ運動学、解剖学、生理学を復習しましょう。触診もしっかりできるようになりましょう。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	精神医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	精神医学の基礎を学ぶ ・疾患に対する特徴と治療法・診察方法を学ぶ ・パーソナリティについて学ぶ			評価方法			
授業概要	精神疾患について理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神神経疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン・精神疾患のDVD				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	精神医学とは VIDEO:精神機能と障害						
第2週	器質性精神障害:総論 アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症						
第3週	ピック病・レビー小体型認知症 VIDEO: 認知症						
第4週	てんかん 国試問題						
第5週	アルコール依存症・アルコール以外の精神作用物質依存 VIDEO: 物質依存						
第6週	うつ病 国試問題						
第7週	双曲性障害 VIDEO:うつ病・双極性障害						
第8週	統合失調症 VIDEO:統合失調症						
第9週	統合失調症(妄想の分類を中心的に問題)						
第10週	妄想性障害 不安と不安障害 強迫性障害						
第11週	VIDEO:不安症・強迫症 急性ストレス反応						
第12週	PTSD・睡眠障害 VIDEO:睡眠障害						
第13週	摂食障害 VIDEO:青年期の精神障害						
第14週	パーソナリティ障害						
第15週	国家試験過去問1(精神医学分野)						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 内臓の各臓器の形態と各部位の名称を理解・説明できる。 2 内臓の機能解剖学的意味合いを理解・説明できる。			評価方法			
授業概要	人体における内臓・脈管系について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト解剖学 プロメテウス解剖学アトラス(胸部・腹部・骨盤部)	使用器材	パソコン・解剖学DVD・配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	解剖学内臓・血管系総論(PT・OTビジュアルテキスト解剖学の教科書P225・226)						
第2週	循環器系解剖(血管の構造 教科書P226～230)						
第3週	循環器系解剖(心臓 教科書P230～237)						
第4週	循環器系解剖(全身の動静脈 教科書P238～245)						
第5週	呼吸器系解剖(鼻・咽頭・喉頭 教科書P246～251)						
第6週	呼吸器系解剖(気管・肺 教科書P252～260)						
第7週	消化器系解剖(口腔・食道・胃 教科書P262～273)						
第8週	消化器系解剖(小腸・大腸・肝臓 教科書P273～284)						
第9週	消化器系解剖(胆嚢・膵臓・腹膜 教科書P283～287)						
第10週	内分泌系解剖(副腎 教科書P295)						
第11週	泌尿器系解剖(腎臓・膀胱 教科書P299～303)						
第12週	泌尿器系解剖(尿道・生殖器 教科書P303～310)						
第13週	国家試験過去問①(内臓・血管系)						
第14週	国家試験過去問②(内臓・血管系)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1.事前に教科書を熟読し、分からない医学用語等を調べておくこと。 2.復習では、プロメテウス解剖学アトラスで各臓器の形態や各部位の名称をノートにまとめること。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各臓器における構造と機能を理解し、生理学の知識を応用して理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の各器官の正常生理機能を理解する。理学療法にとって重要な器官に関しては、詳細にかつ病態について学習する。また、国家試験過去問を授業資料として入れていく			試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学OT学 専門基礎分野 生理学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週 (2コマ)	呼吸とガス運搬						
第2週 (2コマ)	呼吸とガス運搬						
第3週 (2コマ)	尿の生成と排泄 試験						
第4週 (2コマ)	尿の生成と排泄						
第5週 (2コマ)	酸塩基平衡						
第6週 (2コマ)	消化と吸収 試験						
第7週 (2コマ)	消化と吸収						
第8週 (2コマ)	内分泌						
第9週 (2コマ)	内分泌						
第10週 (2コマ)	代謝と体温 試験						
第11週 (2コマ)	代謝と体温						
第12週 (2コマ)	生殖と発生						
第13週 (2コマ)	生殖と発生 試験						
第14週 (2コマ)	運動生理						
第15週 (2コマ)	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	神経系の基礎を学ぶ ・中枢神経、末梢神経の構成及び役割を学ぶ ・脳の構成と役割について学ぶ ・感覚について基礎を学ぶ			評価方法			
授業概要	人体、特に神経系・感覚器系の形態・機能・構造の概要の教育、理学療法士として理解が必要であると考えられる事項の教育。成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テストと期末テストの総合により評価する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プロメテウス ビジュアルテキスト	使用器材	人体骨格・脳・神経・血管模型 パソコン 配布資料 DVD				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週 (2コマ)	神経系の区分: 中枢神経系・末梢神経系・神経細胞・支持細胞						
第2週 (2コマ)	神経線維と興奮伝導・灰白質と白質						
第3週 (2コマ)	脳: 大脳(終脳) 試験						
第4週 (2コマ)	脳: 大脳(終脳)						
第5週 (2コマ)	脳 : 脳室・脈絡組織・脈絡叢・硬膜・くも膜・軟膜・硬膜静脈洞・小脳テント						
第6週 (2コマ)	脳 : 小脳 間脳 試験						
第7週 (2コマ)	脳 : 脳幹						
第8週 (2コマ)	脊髄神経の構造と機能						
第9週 (2コマ)	運動の伝導路(錐体路・錐体外路) 試験						
第10週 (2コマ)	運動の伝導路(錐体路・錐体外路)						
第11週 (2コマ)	末梢神経系の構成						
第12週 (2コマ)	末梢神経系の構成 試験						
第13週 (2コマ)	自律神経系の構成						
第14週 (2コマ)	自律神経系の構成						
第15週 (2コマ)	感覚器系						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。学習内容はノートでまとめ、週間ごとに提出とする。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	病理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 病気の発生機序および身体に及ぼす異常について理解し、説明ができる。 2. 病気に関わる専門用語の定義が理解できる。			評価方法			
授業概要	病理学領域における疾患について学習する。 国家試験の過去問を授業資料として取り入れる。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	カラーで学べる 病理学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	病理学 総論						
第2週	細胞・組織とその障害						
第3週	再生と修復						
第4週	循環障害						
第5週	単元試験1						
第6週	炎症						
第7週	免疫とアレルギー						
第8週	感染症						
第9週	単元試験2						
第10週	代謝異常						
第11週	老化と老年病						
第12週	先天異常						
第13週	腫瘍						
第14週	単元試験3						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	臨床心理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床心理学の基礎的な概念や理論を学ぶ。 ・心理アセスメントの基本的な方法、解釈法について学ぶ。 ・心理臨床の基本的な態度、心理療法の基礎について学ぶ。			評価方法			
授業概要	国家試験の内容をふまえて重要項目を解説しながら、心理臨床にまつわる視点や心理療法について学ぶことで、将来対人援助職として他者に関わる際の一助となることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はじめて学ぶ人の臨床心理学	使用器材	液晶プロジェクター パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション						
第2週	グループワーク						
第3週	グループワーク						
第4週	グループワーク						
第5週	グループワーク						
第6週	心理療法						
第7週	心理療法						
第8週	心理療法						
第9週	心理療法						
第10週	心理療法						
第11週	試験						
第12週	心理テスト						
第13週	心理テスト						
第14週	心理テスト						
第15週	パーソナリティ障害						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和5年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 四肢と体幹の基礎運動学を理解できる。 2. 四肢と体幹の応用運動学を実習を通して理解できる。 3. 四肢と体幹の運動学を臨床に応用できる。 4. 姿勢の基礎運動学が理解できる。			評価方法			
授業概要	ヒトの四肢および体幹の運動の捉え方、表現方法を把握し、それぞれの関節構造・機能、筋の働きを学ぶ。姿勢についての基礎を理解する。			期末試験 60% 小テスト 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための運動学テキスト	使用器材	等身大骨格模型、筋模系、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週 (2コマ)	肩甲骨・肩 1						
第2週 (2コマ)	肩甲骨・肩 2						
第3週 (2コマ)	肘・前腕						
第4週 (2コマ)	手関節・手						
第5週 (2コマ)	前回までのまとめ、確認小テスト1						
第6週 (2コマ)	骨盤帯・股						
第7週 (2コマ)	膝・下腿						
第8週 (2コマ)	足・足関節						
第9週 (2コマ)	前回までのまとめ、確認小テスト2						
第10週 (2コマ)	頭部・顔面						
第11週 (2コマ)	脊柱1						
第12週 (2コマ)	脊柱2						
第13週 (2コマ)	前回までのまとめ、確認小テスト3						
第14週 (2コマ)	姿勢						
第15週 (2コマ)	まとめ						
授業外 学習指示等	授業の進行に併せ解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	人間発達学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在小児発達系施設に勤務中	担当者	小倉秋菜	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人間の成長課程における、発達状況の特徴を述べることができる。 発達段階における変化に対応するために基礎的知識の概要を習得する。			評価方法 期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	人間は生涯発達する存在として捉え、生命の誕生から死に至るまでの量的、質的变化を学び、各発達段階に生じやすい発達上・健康上の問題と急速に変化した日本の社会問題への対応、解決策をも同時に学習する。						
教科書等	コメディカルのための専門基礎分野 テキスト 人間発達学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	人間発達学概論(発達とは、発達理論)						
第2週	生命の誕生(出生前・後) 乳児期①(身体的発達) 原始反射・姿勢反射①						
第3週	原始反射・姿勢反射②						
第4週	原始反射・姿勢反射③ 乳児期②(運動的発達 その1)						
第5週	乳児期③(運動的発達 その2)						
第6週	乳児期④(運動的発達 その3、 認知的発達)						
第7週	乳児期⑤(情緒・社会的発達)						
第8週	幼児期①(身体的発達、運動的発達)						
第9週	幼児期②(認知的発達、情緒・社会的発達)						
第10週	学童期						
第11週	青年期						
第12週	成人期①						
第13週	成人期②						
第14週	高齢期 死、そして受容						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						